新型コロナ感染症と資産バブル

日興リサーチセンター株式会社　理事長
山　口　廣　秀

新型コロナ感染症の蔓延

疫病の集団的流行を研究する疫学の専門家の間では、かねてから感染症のパンデミックがいずれ発生することは常識になっていた。2018年５月には、感染症の世界的権威である米国ジョンズ・ホプキンス大学の研究チームが、将来予想されるパンデミック病原体に関するレポートの中で、病原体は、呼吸器感染による拡散、潜伏期間中や軽症時の伝染、高い変異性などの特徴を有するため、世界情勢に幅広く悪影響を及ぼす惧れがあると指摘し、病原体の監視体制の強化やワクチン開発などの必要性を訴えていた。まさにその予言通り、新型コロナ感染症が昨年初以降世界中に蔓延した。

新型コロナ感染症は、2021年４月末時点で世界の累積感染者数が１億５千万人を超え、死亡者数も３百万人を上回るなど、有史以来の疫病の歴史をみても大規模なパンデミックである。他方、ワクチンを１回でも接種した人の割合は、進んでいると言われる米英でも４月末で40～50％程度であり世界全体では約８％に止まっている。とくに日本は２％と低さが際立っている。多くの国において感染症に対する防御体制が十分でなかったことが浮き彫りになった。専門家の警鐘は、それが的確であればあるほど事前的には人々の心に響かないことが多いが、今回